



根 生

2012

(平成24年)

10月1日

発行●新島学園同窓会 松本長光
住所●〒379-0116
群馬県安中市安中 3702
TEL●027-382-4073
FAX●027-382-4093

同窓生の皆様へ



会 長
松本長光

同窓生の皆様こんにちは お元気ですか

日頃より同窓会活動へのご理解、ご支援、ご協力有難く感謝申し上げます。

さて、ここ3年間の同窓会の大きな変化といえば各地区に続々と根笹会が誕生したことです。それによつて各地区のコミュニティが深まり更に本部との関係にも好影響が生じ、各イベントにもベテランから若手までの参加率が高まって大きな質的变化を感じております。

新島学園を支える地域同窓生の元気

理事長 大平良治

1 つぎつぎに誕生する地域根笹会

今、新島学園の地域の同窓会（地域根笹会）がつぎつぎに誕生しています。

一昨年には高崎、富岡・かんらにおいて、今年になって桐生、埼玉そして安中の地域根笹会が誕生しています。東京根笹会を含めると8カ所で地域根笹会ができたことになります。会長さんをはじめ、役員のみなさんのご努力とご苦労に心から感謝いたします。

今年、新島学園は創立満65年を迎えました。1947年（昭和22年）、第二次世界大戦に敗れ、混乱と飢餓と伝染病が蔓延し食糧が不足し、人々が明日の生命さえ危険にさらされている時代に、日本再建と地域復興と再生

高崎、富岡かんら、桐生、埼玉、安中の新しい各地区根笹会とすつかり定着している東京、前橋、伊勢崎佐波根笹会 計8支部のコラボレーションは今後益々楽しみです。

同窓会活動とは本来、肩に力をいれてむきになって取り組むべきものではなく、自然体でそよ風のような活動が望ましいかと思っています。

そよ風には緑陰が、そして樹木が必要です。各地区の根笹会はその樹木の役割を担っているのでしょうか。

こんな環境の中で同窓会報根笹が発行されました。ご協力頂きました皆様心から感謝を込めてご挨拶と致します。

け容れられ、全国的に或いは地域において活躍し、多くの実績と成果をあげ、社会公共に貢献しています。今、それぞれの地域に住まい、働いている同窓生が横につながり、根笹会を立ち上げて会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与するために活動することは極めて有意義なことであり、今の時代と社会の要請にも適合していると考えています。

2 今、重視される地域の絆

昨年3月11日、東日本大震災が襲い、多くの尊い人命が失われ大変な被害を出しました。

特に津波は大規模で未曾有なものでした。識者によりますと、869年に東北地方を襲った貞観大地震よりも大きく、1000年に一度の大津波であったといわれています。この東日本大震災により、いろいろな問題が提起されていますが、国民の意識や価値観も大きく変化しました。戦後の高度経済成長の時代から、人も物もお金も東京を中心とする一極集中が進み「中央集権型社会」が形づくられました。

また、最近の人口減少・超高齢社会の本格的到来と経済を中心とするグローバル化や情報化、そして経済の長期低迷は地方（地域）を衰退させています。農山村においては「限界集落」が現れると同時に、都市における中心市街地の「シャッター通り」が大きな問題になっています。そのため「分権型社会」の創造が叫ばれ、地域の歴史や文化を重視し、自分の毎日暮らしが続いている地域コミュニティの重要性が強くいわれています。かつて古くさく、封建的とも受け止められていた「地域の絆」が復権しようとしています。大きな天変地異が起き、激しい災

害が起きたときに、最も重要な役割を果たすのは「地域コミュニティ」の連帯であり共同であり、「地域の絆」であるということです。今、国民に再認識されています。新島学園の建学の精神の基である新島襄は、地方（地域）に強い温かいまなざしを向け、地方を担い支える人材の養成をする教育を重視した人でした。1982年（明治15年）7月15日、新島襄は八重夫人と安中に来て、原市において「地方教育論」という講演をしています。その中で新島襄は次のように述べています。「我が国の現在の教育は、中央の教育に集中しどんな学問でも中央にいかなければできない状態になっている。中央の地で受ける悪影響によつて学生が腐敗することが多いうえに、学生を感化し養成する勢力が弱いので、今日の状況から論じると真正の教育は地方で実施することが望ましい」「地方の学校で教育を受けた人は、いったんその地方に事が起きたときは、地方の率先者となり、村落の骨となる」

新島襄は一人ひとりの良心と自立自治ということを強調しましたが、地方（地域）が自立し自治を確立し個性と独自性を発揮することを期待していました。そうすれば我国は振興し民権（民主主義）が発展すると確信していました。

私は新島襄は、今でいえば地方分権主義者であり、地域主義者であったのではないかと考えています。

3 未来を切り開く地域同窓生の元気

昭和から平成に時代が変わると同時に、バブル経済が崩壊し、その後政治経済及び社会が低迷し「失われた20年」ともいわれています。そして今、東日本大震災が起こり、日本は今、「第三

の敗戦」を迎えたといわれています。

家族、地域社会、そして職場という社会の根つ子のところから大きく激しく変化し、かつて経験したことのない時代を迎えています。また、グローバル化があらゆる分野に影響を及ぼし、グローバルな人材の養成が求められています。

このような時代と社会にあつて、今、新島学園のそれぞれの地域の同窓生は極めて元気であり、地域に新しい風を吹き込み、衰退している地域の再生に大きな役割を果たすことが期待されています。また、私は同窓生の元気は新島学園と日本の社会の未来を大きく切り開き、希望と発展の大きなエネルギーになるものと信じています。ぐんまという地方に創立し、65年の歴史と伝統を積み重ね、個性と特色を持つ私学である新島学園にとつても、未来に向けていろいろな課題が待ち受けています。課題をのりこえ、未来に向かって新しい時代を切り開いていくビ

新島襄先生の安中來訪について

二期生 淡路博和

はじめに

「夢故園花」第2号で新島八重子夫人の安中來訪について記してみました。それでは新島先生は安中に何回来訪しておられるのか。こんな質問を受けることがあります。

この件に関しては昭和49（1972）年、3期生肥後正久氏の調査記録があります。群馬県には10回来訪されておりますが、そのうちの2回は伊香保と前橋までで、安中には来られませんでしたが、安中來訪は

ジョンと行動が強く求められています。

そのためには、理事や教職員が一体となつて知恵を出し、情熱をもつて教育にあたり生徒一人ひとりと保護者の思いや願いを実現していくことが必要です。建学の精神を踏まえ、教育5原則の実践に取り組み「仰いで神をおそれ、伏して己を慎み、地の塩、世の光」となつて社会公共に奉仕する人材の育成をする教育を行っていくことが重要と考えています。

しかし、私はそれと同時に、13,000人をこえる同窓生の元気が、これからの新島学園の持続的発展に不可欠で大きな強い力になることを確信しています。

2013年は新島襄生誕170年を迎えます。新島学園短期大学も創立30年の記念すべき年であり、NHKは大河ドラマで「八重の桜」を一年間放映します。地域根笹会のみなさんのますの元気と活躍に期待いたします。

8回ということになります。

今号では、その時々の中での活躍の様子を、左記全集「年譜編」をもとに記してみました。そして本論の末尾に、安中でなされた演説を左記全集「教育編」から引用してみましたのでご覧ください。

○参考文献

1、「新島襄全集 8」年譜編

新島襄全集編集委員会編

1992年7月10日発行

発行所同朋社出版

2、「新島襄全集 1」教育編

1983年2月25日発行

同委員会編集・同社発行

（ ）内の数字は陽暦。満年齢計

算です。
「」内は、発着日を含めて安中滞在の日数を表しております。
○写真は主に、同志社発行「新島裏―その時代と生涯」より転写させていただきます。

第1回来訪

文久元年（1861）18歳

3・11（4・20） 安中藩主板倉勝殷に従い、初めて安中に向かう。

（安中藩主板倉侯の参勤交代は3月か4月には安中に来て、7月には江戸へ帰りますので、安中滞在は4か月ほどです。その上、家来たちは安中に留まらず、江戸に引き返す場合が多いので、新島七五三太が何日安中に滞在したかはわかりません）
「安中滞在日数不詳」

元治元年（1864）函館から脱国 21歳

3・13（4・18） 正午頃 品川沖に停泊中の快風丸に乗船
午後3時頃 箱楯^{はこたて}に向け出帆。
3・16 浦賀出港。
4・21 箱楯に入港。
6・14 午後11時過ぎベルリン号に乗る。
6・15（7・18） 税関役人の点検を終え、ベルリン号は箱楯出港。
（在米10年間 明治7年帰国）

第2回来訪

明治7年（1874）31歳

（帰国直後の動向、以後は陽暦）
11・26 午後5時 コロラド号で横浜に入港
11・28 早朝 東京郊外の板橋より人力車3台を借り切り一路安中に向かう。食事の間小休止するだけで20時間を走り続け、深夜12時頃安中に到着
伝馬町山田屋隣蔵方（現安中郵便局西隣清水花店の場所）に宿泊する。
11・29 晴 朝8時頃 山田屋より帰国を知らせる使いを出

し、家族や近所の人々に迎えられて家に帰る。父親の民治はその喜びを「一生の歓喜此時に在り」と家統記に記す。民治は新島の帰国届を植栗に依頼する。

安中新島家旧宅
昭和39年 現在地に移築



11・30 親類・知人へ無事帰国の挨拶に廻る。

12・2、3 旧安中藩士の星野閏四郎・根岸松齢・新島公義ら8名で妙義山「中の岳」から最近鉄鉱石の見つかった甘楽郡小坂へ行き一泊。翌日、雨中鉄山を見物し富岡を廻って午後7時帰宅。旧藩士清水方にて講釈をする。

12・11 安中の学校にて演説。
12・13 安中の龍昌寺にて地域の僧侶や高崎の上級役人全員が聞きに来る。

高崎よりの官吏8名と伝馬町須藤内蔵助（現安中郵便局の所）にて面会し、前出の人たちと安中学校へ行く。
12・16 午後2時より安中学校にて講話。

12・20 隣村の役人に招かれ夕食後8時より、その家族にイエス・キリストの話をする。磯部の萩原茂十郎方に招かれ一泊する。
12・22 ハーディ夫人に手紙を出し帰国後のことを報告。父親の同意を得て家の神棚・お札・日本の神に関する物を焼

き捨てる。東京での寄留先を「牛込若宮町33番地川田剛方」と新島公義より戸長へ届け出る。
12・24 晴 安中を出発、人力車で東京に向かう。
「安中滞在27日間」

◎ここで地元安中の古記録紹介します。

安中藩士族猪狩氏が遺した「掌中日記」の中に、新島七五三太帰国後の様子が記されていますので写真で紹介してみます。

左の4枚の記事は、いずれも明治7年12月の記事です。

同 十一日 晴
一新島先生当安中学校ニ於テ午前第十時ヨリ洋行始末合衆国ノ景况（況）并耶蘇宗門ノ大意ヲ被解候事

同 十四日 晴
一新島先生當安中學校ニ於テ午前第十時ヨリ洋行始末合衆國ノ景況并耶蘇宗門ノ大意ヲ被解候事

同 十六日 晴
一新島先生当安中学校ニ於テ午後第二時ヨリ耶蘇宗門の大意ヲ被解候之事
一 右聴聞トシテ高崎支廳官員菅谷清允直村種徳外六名参校致シ候事但外聴聞の者大略三百名程

同 十六日 晴
一新島先生當安中學校ニ於テ午後第二時ヨリ耶蘇宗門ノ大意ヲ被解候之事
一 右聴聞トシテ高崎支廳官員菅谷清允直村種徳外六名参校致シ候事但外聴聞の者大略三百名程

一 耶蘇宗門書籍料
貳百足ヲ封シ 新島先生方へ持参いたし候事

一 耶蘇宗門書籍料
貳百足ヲ封シ 新島先生方へ持参いたし候事

一 新島先生 払曉 攝州兵庫表へ出立之事

一 新島先生 神呪攝州兵庫表へ出立之事

十二月二十四日晴 の記事

第3回来訪
明治11年（1878）35歳

3・28 東京より高崎まで馬車、それより人力車を乗り継いで、午後7時に安中に着く。この夜、ただちに便覧舎で集会を開く。

註 便覧舎は明治5年湯浅治郎氏創設の私設図書館で3千冊余の図書を有し無料で閲覧させ、国内最古の私設図書館といわれているが、明治20年に焼失。現有田屋湯浅家の前、安中市指定史跡。

便覧舎址に立つ碑



3・29 午後 林家（磯部温泉）でキリスト教の話をする。聴衆70〜80人。夜 受洗試問会を開く。

3・30 前日と同様な行事を行う。

3・31 午前 祈祷集会、午後 林家（前述）にて新島と海老名の説教。夜7時半より公会設立の式を行う。30名（女性14名・男性16名）に洗礼を授ける。
註 「安中基督教會録事」には「3月30日夜、便覧舎ニ於テ建会ノ式ヲ行フ、依テ之ヲ安中基督教會ト称ス」と記してあるが、3・31は日曜日である。なお海老名氏を仮牧師と定めた。

4・1 後閑村に行き副戸長や

親類中の者に面会する。午後5時 菅沼家・新島公義の実家植栗家を訪問し公義の身分について相談、さらに学区取締に面会して公義のことにつき周旋を依頼する。民治に手紙を書く。

4・2 上原春朔の家を訪ね、それより更に一里程山に入って化石の標本を採取する。午後 安中を発ち高崎へ向かう。途中志村家を訪う。高崎では越後屋に泊まる。

4・3 高崎を朝4時出発して午後3時 東京着
「安中滞在7日間」

第4回来訪

明治12年（1879）35歳

2・7 午前3時 雪降り積もり全身凍ることき寒気の中を東京より安中に向かう。夕方安中に到着、疲労していたが、強いて多くの来客に接する。早朝より続々来客、夕刻まで暇なし。夜2時間ほど祈祷会を開く。

2・9 日曜日 午前集会を開き午後説教、かつ晩餐会を司る。この日田中貞吉が受洗、夜に入って祈祷会を開く、甚だ熱心、活気に満ちた集会で2時間を費やす。その後、12時過ぎまで便覧舎於いて千木良昌庵ら数名の信者と共に歓談する。

2・10 深夜0時半 馬車で安中を出発、午後1時半 東京着
「安中滞在4日間」
第5回来訪
明治12年（1879）36歳

12・3 新島は海老名弾正の按手札式に出席のため安中に到着する。
12・6 午後7時より海老名の牧師試験を行う。

12・7 午前9時より海老名の按手札が安中教会で行われる。新島「死ニ赴クハ安シ、心ノ戦ニ勝ツハ難シ」、松山「兄

姉への勸「デフォレスト」牧師への勧め」の説教をなし、アッキンソンが按手札、グリーンが握手をする。
12・8 松井田に伝道する。
12・9 中宿及び前橋に行き生産会社において説教をする。聴衆200余人。道を求める者多く、数回説教をする。一泊する。
12・10 東京へ出発する。
「安中滞在8日間」

明治15年（1882）39歳

7・11 徳富猪一郎・湯浅吉郎・奥亀太郎・保坂七之介・伊勢時雄と中山道を京都より東北までの旅行途次（当冊子表紙の行路図参照）、碓氷峠より（馬車）坂本を経て安中に夜八時到着。八重子夫人らに迎えられて湯浅治郎宅に泊まる。徳富らは山田屋（現安中郵便局西隣・清水花店の場所）に泊まる。
（八重子夫人は伊勢峰・江場かねを同伴して神戸より海路、横浜を経由して安中に先着していた）

7・12 植栗義達の家を訪う。
7・14 安中養蚕室にて演説会を開く新島「文明ヲ組成スル四大元素※1」ほか奥亀太郎・森田寿太郎・渥美貞幹らが弁士、聴衆200人。

7・15 原市で演説会を開く。新島「地方教育論※2」ほか前日のメンバーに杉田勇次郎が加わる。聴衆6〜700人。
7・16 安息日、早朝、植村新次を連れ鷲宮の佐藤種五郎宅（妻貞規が新島の長姉）に行き、前日より来ている中島浅五郎・植栗義達ら親戚立会いの下に新次の離縁について相談し双方合意に達す。
安中養蚕室でガラテヤ書四章について説教「種を蒔く」ことについて説く。杉田勇次郎の説教もある。聴衆200人。夜、松井田の養蚕所で演説す

る。弁士は新島・奥・森田・湯浅で、小学校教員も来て傾聴する。聴衆4〜500人。
7・18 新島夫妻は伊勢時雄夫妻を同道して安中を出発、会津若松に向かう。午前11時馬車で出発、高崎で乗り換え、倉賀野・玉村を経て木崎に至り一泊する。（27日 会津若松に到着）
「安中滞在八日間」

京都―中山道―安中―会津のコース



第7回来訪

明治16年（1883）40歳

5・4 安中教会で新築会堂発会式が行われる。
5・8〜5・12 第3回全国基督教徒大親睦会が東京の新栄教会・浅草教会・井生村楼にて開催される。安中教会より



海老名夫妻・湯浅治郎・上原春朔ら参加。

5・12 参加代表者記念撮影
神田旭楼

前出の写真は、神田旭楼での同大親睦会代表者の記念写真ですが、新島先生は何処におられるか、わかりますか。実は、当時の群馬のキリスト教界を代表する二人の人物が並んで写真に収まっている珍しい写真です。前から2列目の中央、向かつて右から4人目が新島襄、5人目が内村鑑三です。安中教会代表としては湯浅治郎、海老名弾正が前列右に座っています。

写真の一部拡大



右 海老名弾正 治郎
左 湯浅



右 新島 襄
左 内村鑑三

(この親睦会の後、新島先生は安中に向かいます)

5・18 新島先生は馬車で東京を出発、熊谷に一泊。
5・19 午後、安中に到着する。
5・20 安中の新築なった教会堂で蔵原惟郭と共に説教する。「古キ人新シキ人」

当時の安中教会、通称「碓氷会堂」北東面
(新島学園蔵古写真より転写)



聴衆300余名。

夜、原市教会にて蔵原と共に説教する。「十人の娘用意二怠ル勿レ」

3、4里外より草鞋がけで来る者があり、聴衆は安中より多いようだった。

5・22 同志社生徒岡本彦八郎(高崎) 松本亦太郎(倉賀野)の実家を訪問する。

「安中滞在4日間」

再び欧米諸国へ

明治17年(1884) 41歳

4・6 神戸にて英国汽船Zebe号(船長ハリス・2104トン)に乗船、八重子夫人等の見送りを受け祈祷して別れる。午後7時神戸を出港、長崎に向かう。

欧米より帰国

明治18年(1885) 42歳

12・12 シティ・オブ・ニューヨーク号にて横浜に入港、東京へ向かう。

第8回来訪

明治19年(1886) 42歳

1・25 東京から安中へ出発。
1・26 午後安中に着く。教会で1時間余話をする。次いで原市へ行き病床の半田宇平次を見舞う。閑談して夕食をご馳走になり夜に入って安中に帰る。

1・27 前橋の海老名弾正を訪問し、午後、新築された教会堂でパブリック・ミーティングが開かれ話をする。午後4時20分海老名と共に高崎へ、7時半から1時間ほど説教をし、更に旅行の話をして1時間ほどする。11時に宿に帰る。

1・28 高崎から午後1時45分発の汽車に乗り、5時半東京着。

「安中滞在2日間」

伊香保来訪

明治21年(1888) 45歳

7・24 伊香保で静養のため汽車で前橋に向かう。12時19分前橋到着。桑町の住吉屋国太郎方に入る。

7・27 前橋より駕籠にて渋川を経て夕方5時前に伊香保の木暮武大夫方に到着する。

8・6 木暮より千明三郎の別荘に移る。

8・13 八重子夫人京都を出発安中に向かう。

8・16 八重子夫人が伊香保に着く。

8月下旬 新島公義の母親が九十九村国衛から伊香保に来て3週間ほど滞在する。

9・14 夜、新島公義と河井某女との婚約の報が届く。

9・15 午前10時 伊香保を出発、新島は山駕籠で、八重子夫人は人力車で山を下り、前橋桑町の住吉屋に2泊する。

9・16 八重子夫人は午前より安中へ行く。
9・17 八重子夫人は新島公義の実家国衛へ行く。

9・18 新島は2番列車で東京に向かう。
「前橋・伊香保滞在57日間」

前橋来訪

明治22年(1889) 46歳

11・25 東京を出発、午後4時頃前橋に到着、関農夫雄方に泊まる。

11・26 佐藤与三群馬県知事、曾我部道夫群馬県第二部長に面会、井上馨と青木周蔵の紹介状を渡し、大学の計画と募金につき協力を依頼する。

11・27 夕方 第三十九銀行の笹尾精憲・松本真三町長ら有力者を倶楽部に招いて小集会を開き大学募金を訴える。

11・28 松本町長の斡旋により午後2時より臨江閣にて町役

人60人に演説する。夜、共愛

女学校教師ミス・ジェットンの夕食に招待される。寒さのため腹痛を発す。

11・29 胃腸カタルのため苦しむ。

12・13 募金運動を中座して午前11時50分の列車に乗り、午後3時上野着。

12・15 大磯でしばらく休養するよう徳富猪一郎に勧められる。

12・27 正午 東京を出発して大磯の百足屋に入る。

「前橋滞在33日間」

永眠

明治23年(1890) 46歳 11か月

1・23 午後2時20分永眠、病名は急性腹膜炎

1・27 同志社チャペル前のテント張りの会場にて告別式、参列者4000人、若王子山頂で埋葬式、同墓地に埋葬、午後5時埋葬式終了

さて、8回に及ぶ安中訪問、それに伊香保・前橋滞在を加えると、合計して新島先生の滞在期間は何日になるでしょうか。集計したものが左表です。

第1回	不詳	第7回	4日
第2回	27日	第8回	2日
第3回	7日	小計	60日
第4回	4日	伊香保	57日
第5回	8日	前橋	33日
第6回	8日	小計	90日
総計		150日	

上州を去る…無念の漢詩

このように安中来訪が合わせて60日間、伊香保と前橋が合わせて90日間、総計して150日間となりました。内容を見ますと、キリスト教の伝道に関して

の仕事で安中を来訪した60日と、

静養のために伊香保に来られた60日がほぼ同じ日数ですが、最後の前橋訪問で病を発し、残念、募金活動を断念し、療養のため大磯に向かったものでありまし

た。

その時の新島先生の無念の胸の内を詠ったのが、次の漢詩であります。

秋風蕭颯渡刀川

欲去尚看両野天

新雁不知孤客意

声々鳴到赤峰辺

秋風蕭颯刀川を渡る

去らんと欲して尚看る両野の天

新雁は知らず孤客の意

声々鳴いて到る赤峰の辺

【意訳】

秋の風がもの淋しく利根川を渡った行く、

去るうとして両野(上野・下野両国)の天を見上げると、孤独な旅人の心も知らずに、新参の雁が鳴きながら赤峰の峰を指して飛んでいく：

この時の新島先生のお気持ちはいかばかりであったろうか。大磯の百足屋でついに先生は46歳11か月余の生涯を閉じられたのであります。「平和、喜び、天国」と呟きながら永久の眠りにつかれたとのことであります。

「新島襄先生臨終図」
久保田米億筆 明治23年1月



画面の中の人たちの名前は、推定との事です。病床に臥す新島先生を囲んで、手前向かって左が、医師J・C・ペリー、黒羽織の人が八重子夫人。向こう側左から、不破ゆう、徳富蘇峰、永岡喜八の皆さん。

安中での新島先生の演説2つ

註 原文は漢字と片仮名ですが、読みやすいように平仮名とし、さらに送り仮名も現代風に改めました。

一、演題

「文明ヲ組成スル四大元素」

第6回来訪の時

明治15年(1882)

7月14日

安中養蚕室にて

○智識、財産、自由、良心の働きを養生する事。この内一つも欠くべからざること、あたかも卓の四脚あるが如し。この内誰かを重んじ、誰かを軽ろんずるや。君子国をなすには(別記には天国をなすには)良心を養生する事を最も貴重とすれども、文明国をなし、文明の社会を組織するには、この四大元素のうち一つも欠くべからず。

○未開の人あり、如何にして進むや。

△智識の開発を要す。

家の改良、道具の改良、製造、運搬、旅行等、随つて生じ、随つて財産の増殖を生ず。

△財産の増殖

資金を・と元とし、またそれを以て増殖の元手とす。財産は最も常人の要する所、これあり文明の民たるに足らず。一の金満家財産増殖に無理をなす。

△自由の皇張

身分上の自由、財産土地所有の権の自由、国民たるの自由、公平適宜の法あり、よく自由

関東新聞販売 株式会社

取締役会長 大橋 稔 (5期)
常務取締役 大橋 龍太 (32期)

〒379-0116 安中市安中4-4-21

☎ 027-382-1811

株式会社 総合電子計算センター

代表取締役 松本 長光 (12期)

〒370-0807 高崎市歌川町72番地

☎ 027-327-1500 (代)

FAX 027-327-0921

を獲る。縄墨ありよく画をなすが如し。
(二種外来の自由、心中の自由)
△道心の発育、(神の愛する所を愛し、神のに悪くむ所を悪くむ)
○智識、財産、自由を運転せしむ者、□の譬え。
○安中の信者に望む所、良心の働きをなさざれば、私の論は兄弟のために打ちつづさるるなり。

二、演題
「地方教育論」
第6回(来訪の時、明治15(1882)年7月15日 39歳
原市で演説会を開き左の講演をなされた。

「原」(原市)に於いて
地方教育論
ドイツに30の大学
英国に34の大学
スコットランド3つ
米国に368

教育について論ずるに何の差別もあるまじきに、何故地方教育論をなすかを問えば、答え曰わん、我国の教育の如きは「東京」中央に集まり、何学も中央に行かねば学問のなき事に成り行き、また中央の地に於いて受ける所の悪風は生徒を腐敗せしむるに□し。これを薰陶し、これを養生するに勢力の乏しき事あれば、今日の勢を以て論ずれば真性の教育を地方に布くに如かず。
○地方に布かんとすれば、先ず地方の有志輩協同一致して拠金をなし、その任に当たるの人を選び、上等小学卒業生のその校に進み、高等なる学科を学び、経済の大意なり法律の大意なり、物理学、器械学等の大意なり、農学の大意なり普通を教えしめ、卒業の上はひと通りの教育を受けたる人となり、地方にまいり如何

なる役も勤まり、県会議員なり一会社社の長なり、一の農家の戸主なり、ひと通りの学問ある上は、仮令、無事の日に日向にあり、各々の家業事を預かるも、一旦ことある時は地方の率先者となり、村落の骨となり、教会の基となり、自由を皇張し、また物産をすすめ、人々にも良き手本を示し、学者たる者は自ら先生となるにあらずして、却つて身を社会の犠牲となし、社会の進歩を計るの人を養成せば、我国何ぞ振るわざる。我民権の起きざるを憂えん。義塾を起し、往々これを米国のコルレジの如きものとなし、広く学びたる人を養成するに如くはなし。
○米国のガーウヒールド氏の如きはコルレジの中葉の人な□は、自由民権の養成所はこのコルレジにあり、この義塾の拳なくんば如何にして国の勢力を養い得べきぞ。海陸軍を増すは弥末の浅論なり。

切支丹禁制の高札

これは慶応4(1868)年の切支丹禁制の高札です。
全国の村々の要所や宿場町の高札場にかかげられた高札の写真です。



一切支丹宗門之定

儀者は迄御
禁禁之通固
く可相守候
事
一 邪宗門之儀
者固ク禁止
之事
慶応四年 太政官

日本に於ける信教の自由

明治新政府もこのように、江戸時代に引き続き、当然のように切支丹禁止を続行致しました。ところが、明治4(1871)年の秋、右大臣岩倉具視が全権大使となり、木戸孝允・大久保利通らを従えて欧米列国を歴訪した時、アメリカ政府から、キリスト教禁制の高札は不当であるという抗議がありました。そこで、新政府も明治6(1873)年2月24日、明切支丹禁制の高札を初めて撤去したのです。

しかし、撤去の理由は、キリシタン禁制は既に一般に知られているから高札をおろす、というだけのことでした。いわば諸外国からの圧力をかわすためでしたが、それでも、一般にはキリスト教の解禁と理解され、キリスト教の宣教活動が公に行えるようになったのでした。

▼新島七五三太が帰国したのは、その翌年の明治7(1874)年11月でした。
明治22(1889)年発布の「大日本帝国憲法」も信教の自由をうたったが、これも「天皇の臣民として国民の義務に背かない」という条件付きでした。
▼日本に於いて信教の自由が人々の基本的人権として認められたのは、昭和22(1947)年発布の「日本国憲法」によってでありました。

新愛唱歌(学生歌三番)でできる

皆さんよくご存じのとおり、学園には「校歌」育英の伝統の地に「学生歌1番」晴れわたる「学生歌2番」山はみどりの」と、3つの生徒愛唱歌があります。

《学生歌3番》空のまなざし

1. その人のまなざしが 今日も空で見守る
魂のきらめき 一人一人にまぶしい
それはここに学ぶ 人から人へと
伝わり流れる 心の血潮
自由 愛 希望 新島学園
みんな一つの未来 新島学園

2. その人の呼び声が 雲の彼方指さす
さあ君の理想で 明日の地球を回せと
青空の鏡に 自分を映して
恥じない私に 巡り逢いたい

祈り 友 誇り 新島学園
永遠の夢の故郷 新島学園

《作詞》
山川啓介(本名・井出隆夫)氏

長野県出身 作詞家・音楽構成家
主な作品：太陽がくれた季節、帰らざる日のために、ふれあい、時間よとまれ、M・F・ブル、銀河鉄道999、聖母たちのララバイ、北風小僧の寒太郎、他多数
学園との関係：元PTA本部役員(長野地区代表幹事、元法人評議員)

《作曲》

中島ノブユキ(本名・中島伸行)氏
安中市出身 作曲家・編曲家・ピアニスト
主な作品：角川映画「人間失格」のテーマ曲、NHK大河ドラマ「八重の桜」音楽担当、他
学園との関係：第37期卒業生

は我が師、師は我が友の一節は、学園の校風醸成に大きな影響を与えたと言われています。

校歌は、岡部鎗三郎先生の作詞、黛 敏郎氏の作曲により、1958年に制定されました。

しかし、1958年3月には第7期生が卒業していますので、校歌として親しんだのは第8期生以降ということになります。

各地区根笹会などでパーティーも終わりに近づき、校歌斉唱の時になると必ず「この歌は、余り良く知らないんだよね」とつぶやく先輩方が居られますが、その方々は第7期以前の大先輩ということになる訳です。

さて、1947年に創立された新島学園は、今年で65周年を迎えました。創立の翌年に作られた学生歌1番・2番は誕生から64年、校歌は54年が経過した事になります。

これらの愛唱歌は、今日まで大切に歌い継がれて来ていますし、これからも学園の伝統として永く歌い継がれて行くものと思っています。

そしてこの度、65周年を機会に、従来の愛唱歌に加えて、現代の生徒たちの感覚にマッチした新しい愛唱歌「を作りたいたい」という気運が生じ、「学生歌3番」が生まれることになりました。

校歌・学生歌1番・学生歌2番と共に、大切に歌い継がれる事を願っています。

現在、斉唱譜を基本にして合唱譜およびピアノ伴奏譜への編曲をお願いしている段階であります。65周年の節目に生まれた愛唱歌」として、その歌詞を同窓生の皆様にご紹介申し上げます。

完成後は、曲も付けて同窓会HPで紹介させて頂く予定です。宜しくお願い申し上げます。

校長 市川平治

創業明治11年
総合建設業・一級建築士事務所
製材・プレカット・アスウッド

株式会社 研屋

代表取締役 清水 一希 (51期)

〒370-0069 高崎市飯塚町805
☎ 027-361-5095

10年保証

トータルエネルギーシステム
ホソヤ

冷凍冷蔵・空調・給排水衛生設備 企画・設計・施工
24時間メンテナンスサービス

代表取締役 細谷可祝 (29期)

本社:〒370-0802 群馬県高崎市並榎町85-7
TEL:027-362-7711(代) FAX:027-362-7000

地元密着の水道屋さん

ヤマハチクボニワ

水回りでお困りのコトございませんか？

小さな修理も、大がかりなりフォームも
抜群のフットワークで承ります！

安中市安中 2-5-15
☎ 027-381-0435

建築建材でも
土木建材でも

kontex

Rolled Steel Products
Architecture
Civil Works
Landscape Gardening
Office Furnitures & OA Machines

One Stop

小松総業株式会社

代表取締役社長 小林正明 (20期生)
〒370-0008 高崎市問屋町3丁目10の1
Tel. 027-361-5860 Fax. 027-361-9968
URL : http://www.kontex.co.jp

各地区根笹会

東京

東京根笹会会長 松本政之



東京根笹会総会、懇親会は、昨年同様、有楽町外国人記者クラブで、140名を超える出席者で開催しました。群馬から、大平理事長、狩野学長、市川校長、始め学園の経営陣、松本会長始め同窓会本部の方々、他地区根笹会長、来賓各位の参加を頂き、盛大に行う事が出来ました。各期の幹事の尽力、開催準備、挙行に携わった20期会員を核としたスタッフの貢献で有意義な会を持つことができました。

今年も若い人たちの参加が増え、会の雰囲気、話題も変わりつつあります。2世代で参加されている人達、年齢世代を超えたオープンな交流が進んでおり、楽しいことです。また、群馬、埼玉、各地域に根笹会が誕生、復興して、頼もしいことです。根笹会への所属も、居住地1カ所のみでなく、勤務、友人の多い地域への複数力所所属も大いに進めて下さい。こうして学園OBの絆が広く密に拡がっていくことは、社会的にも、個人にとっても意義ある事です。今、日本の社会は、長期の経済不振、政治の停滞、社会政策の混乱、モラルの低下、加えて天変地異による大災害、閉塞感に覆われているように思われます。今の日本をつくってきたのは我々世代であり、再び若い人たちが希望を持てる日本になる

よう変えてゆく責任があります。我々、すべて、時代の批判者、傍観者ではなく当事者である事を自覚しあい学園創立の趣旨、「大戦で荒廃した心と国土の復興に資する人材の育成を目指して…」の期待に、微力でも答えて行きましょう。

東京根笹会総会、懇親会
場所 東京有楽町 外国人特派員協会ホール
日時 2012年7月6日(金)
18時30分より
次回 2013年7月5日(金)
18時30分より



前橋

前橋根笹会会長 上田 茂

前橋根笹会は昨年度、平成23年10月22日土曜日、前橋テルサにおいて開催され、議案として、長期に渡りご尽力いただいた、19期熊本義隆会長が顧問に就任され、代わって25期 上田 茂が会長に就任することを報告させていただきました。

前橋根笹会のモットーは、市内在住の卒業生だけでなく、多くの方々の集いの場と考え、他地区の方々にも参加していただいています。特に今回は、来賓として松本同窓会会長・大平理事長・湯浅副理事長・狩野短期大学学長や、多くの来賓の方々

に御出席いただき、総勢70名余の参加になりました。各期毎に近況や学生時代のエピソードなどなどが話し合われ、時間を忘れるほど、楽しいひと時を過ごすことができました。



伊勢崎佐波

伊勢崎佐波根笹会会長 天田清之助

伊勢崎佐波根笹会は、平成24年4月14日(土)伊勢崎プリオパレス会場にて開催されました。

来賓に、大平理事長、市川校長、松本同窓会長の御出席をいただきました。



各地根笹会メンバーにも加わっていただき、合計30名にて賑やかに開催できました。伊勢崎佐波根笹会は、創設以来30数年をかぞえ、毎年開催を原則として、会員の親睦に寄与してまいりました。

桐生

桐生根笹会会長 玉上常雄

久しぶりに桐生根笹会を3月3日(日)に桐生グランドホテルにて松本同窓会長、市川校長、石野教頭、湯川PTA会長の御出席と高崎地区から菊池さん(37期)も参加して総勢40名で盛大に開催いたしました。

地域根笹会としては最も歴史ある集まりですが実は15年振りの同窓会になります。出席は2期から37期と歴史の重みを感じます。全員が寮生でしたので学年に関係なく学園及び寮生活を振り返り、歳相応の活発な会話で盛り上がりました。ただ現状は現役生の情報も少なく、また思い出の清心寮も閉鎖となり桐生地区からの通学は難しく同窓会としての発展は心細い状況にあります。

同窓諸君の知恵と協力および学校当局のご指導を頂いて有意義な桐生根笹会の発展を祈念しております。



富岡から

富岡から根笹会会長 寺田侑弘

富岡から根笹会の第3回目の集まりが2012年11月10日(土)に開催されます。

場所はホテルアミューズ富岡、17時30分受付 18時開会となっております。今回は富岡市出身の38期生

落語家 6代目 古今亭今輔と水口直樹君をお呼びして楽しい時間を皆様と共有したいと考えております。参加資格は特にありません。富岡甘楽地区に限らず新島学園OB・OGであればどなたでも大歓迎です。

お誘い合わせの上、多くの方の参加をお待ちしております。

連絡先 会長 寺田侑弘(7期生)

090-3098-2178

y.terada@daichi-seni.com

事務局 田口慎一郎(38期生)

090-8746-1568

shinichiro_t@mokube.jp



昨秋の第2回富岡から根笹会より

安中

安中根笹会会長 茂木正毅

安中在住の同窓生から、地元安中に根笹会支部を作ろうという気運が高まり、同窓会本部の御協力もいただいて安中根笹会の設立総会が平成24年7月14日(土)安中市内並木苑で開催されました。

母校からは大平理事長、市川校長、大木事務局長、そして松本同窓会長、中島副会長をご来賓として迎え、設立総会・懇親会が160余名の安中在住の同窓生が参加して、賑やかに開催されました。会則や役員人事が審議され、原案通り決定されました。

株式会社 ローズベイ
カントリークラブ
支配人 古田 正浩
〒379-0105
安中市小俣1037番地
☎ 027-382-4111
FAX 027-382-4114

大高醤油 株式会社
代表取締役社長 大高 衛 (34期)
愛子 (34期)
〒289-1321
千葉県山武市富田540
☎ 0475-82-5581
FAX 0475-82-4113

フジコー 株式会社
代表取締役 根岸 誠 (28期)
〒371-0836
前橋市江田町111-2
☎ 027-251-1765
FAX 027-251-8134
URL <http://www.fujiko21.co.jp>

藤口光洋法律事務所
弁護士 藤口 光洋 (20期)
〒371-0022
前橋市千代田町1-14-20
(前橋市内広瀬川沿い)
☎ 027-235-2100
FAX 027-235-1552

株式会社 マエコム
代表取締役 前田 賢一 (37期)
専務取締役 前田 誠 (42期)
〒371-0846
前橋市元総社町3-5-28
☎ 027-280-3240

中島木材 株式会社
中島 知紀 (33期)
〒370-3345
高崎市上里見町1744
☎ 027-374-1162

国際警備 株式会社
専務取締役 山崎 健 (37期)
〒370-0046
高崎市江木町1525
☎ 027-327-5500
FAX 027-327-7799

株式会社 十一屋商店
佐藤 紀子 (34期)
〒370-3401
高崎市倉渕町権田4179
☎ 027-378-2021
FAX 027-378-3021



懇親会は母校の管楽オーケストラ部員に参加して頂き、校歌を斉唱した後、ご来賓からご挨拶をいただき、また、新島学園の地元である安中に根笹会支部が誕生したことに対し御祝いの言葉とエールをいただきました。

また、東京からわざわざ駆けつけてくれた東京根笹会長の松本政之氏がサプライズで壇上に上がり先輩支部として共に大いに頑張ろうという温かい声援をいただきました。

その後、懇親会も各所で盛り上がり、各学年ごとに壇上にて写真撮影を行ったり、また、先輩・後輩の懐かしい顔合わせがあつたりして、各期ごとのクラス会とはまた、異なった上下の関係・縦の関係での交流があちこちであつて楽しい会となりました。

今回の設立総会では、私共役員が不慣れの為もあつて、全員の方に連絡が行き届かなかった点に対して大変申し訳なく思つております。来年は、4月から6月頃に第2回の総会・懇親会を開催する予定でございます。安中在住の同窓生には、ぜひ、ご都合を付けて頂き参加下さいますよう、そして、お仲間にご連絡頂きまして、多数の参加の下、開催したいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

東京根笹会を始め各根笹会の皆様には安中根笹会をお仲間に加えて頂き、宜しくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新島学園同窓会
同期会開催状況
(2011年10月以降)

- 第5期生同期会**

日時 平成23年10月22日(土)～23日(日)

場所 磯部温泉「磯部ガーデン」(安中市磯部)

参加者 21名

*23日(日)ローズベイC・Cにてゴルフコンペ(参加7名)
- 第19期生同期会**

日時 平成23年11月26日(土)17時30時～20時

場所 「高崎ワシントンホテルプラザ」(高崎市八島町)

参加者 50名
- 第24期生同期会**

日時 平成24年1月22日(日)17時30分

場所 ホテル「メトロポリタン高崎」(高崎市)

参加者 30名

*二次会 会場「笑笑」(高崎駅西口前)(希望者が参加)
- 第36期生同期会**

日時 平成24年2月12日(日)14時

場所 ホテル「メトロポリタン高崎」(高崎市)

参加者 64名(うち恩師2名：里見先生、小瀧先生)

*二次会 会場「チエンティール」(同窓生49名参加)
- 第4期生同期会**

日時 平成24年3月18日(日)～19日(月)

場所 磯部温泉「林家旅館」(安中市磯部)

参加者 29名

*翌19日(月)新島学園見学(希望者が参加)
- 第31期生同期会**

日時 平成24年4月28日(土)18時

場所 「グラツィエ(GRAZIE)」(高崎市双葉町)

参加者 77名(うち恩師3名：淡路先生、星野(光)先生、上野先生)
- 第17期生同期会**

日時 平成24年5月12日(土)～13日(日)

場所 磯部温泉「磯部館」(安中市磯部)

参加者 53名(うち恩師1名：里見先生)
- 第14期生同期会**

日時 平成24年6月3日(日)～4日(月)

場所 「はまゆう山荘」(高崎市倉渕町)

参加者 27名

*4日(月)ゴルフコンペ(希望者が参加)
- 第45期生同期会**

日時 平成24年8月11日(土)13時～

場所 ホテル「メトロポリタン高崎」(高崎市八島町)

参加者 81名(うち恩師7名：大前、竹内、里見、倉俣、小瀧、半田、松本の諸先生)

*2、3、4次会へ多数参加
- 第6期生同期会**

日時 平成24年9月6日(木)～7日(金)

場所 「妙義グリーンホテル」(富岡市妙義町菅原)

参加者 30名

*夕食は、そば屋「田舎や」

**医療法人 協和会
アライクリニック**

院長 新井 哲 (29期)

〒370-2316
富岡市富岡1423番地(富岡駅前通り)

☎ 0274-62-1521 (代)
FAX 0274-64-3888

ヤマハ板鼻教室

田中 美香 (29期、旧姓大橋)

〒379-0116
安中市板鼻1-3-9

☎ 027-382-3462 (自宅)
FAX 027-382-7040

**第33回同窓会
ゴルフ大会報告**

9月9日(日)、安中市ローズベイカントリークラブにおいて残暑厳しい中、ゴルフ大会が開催されました。

今年は27期、33期皆様が担当され、過去不参加の期の方達に声を掛け参加人数は151名(女子6名)のビッグな大会となりました。

ラウンド後の表彰式パーティーには市川校長、狩野学長、大木事務局長に参加していただき、学園の近況報告をしていただきました。

表彰式では順位結果に一喜一憂し、学園時代にもどり、期を越えた交流も盛んに行われました。

来年の開催は2013年9月8日(日)同じローズベイカントリークラブで行う予定です。

担当は28期、34期の皆さんです。今年参加の皆様はもとより、特に30、40、50期代の皆様の積極的な参加を期待しています。

結果報告(敬称略)			
優勝	● 関 口 哲 郎 (27期)	アウト42	イン41 ネット66.2
女子優勝	● 並 木 敦 子 (37期)	アウト44	イン36 ネット71.6
ベストクロス	● 斉 藤 郁 也 (14期)	アウト36	イン39 グロス75
準優勝	● 柘 植 浩 樹		
3 位	● 斉 藤 達 雄		
4 位	● 黒 澤 重 春		
5 位	● 相 川 安 正		
6 位	● 萩 原 永 史		
7 位	● 正 田 隆		
8 位	● 柿 沼 正 彦		
9 位	● 斉 藤 郁 也		
10 位	● 岩 井 智		

株式会社 環境管理センター

代表取締役 森田 岳志 (26期)

〒370-0845
高崎市新後閑町281-3

☎ 027-322-1984
FAX 027-325-7051

株式会社 津田商店

代表取締役 津田 芳也 (20期)

〒370-0069
高崎市飯塚町425-2

☎ 027-361-5287
FAX 027-363-4094

株式会社 ウイングギャレックス

代表取締役 須賀 巖 (40期)
高橋 和義 (54期)

〒379-0111
安中市板鼻2-3-16

☎ 027-382-3206
FAX 027-382-3508

**榛名の森カントリークラブ
(旧 響きの森カントリークラブ)**

営業 小山 哲弘 (23期)

〒370-3401
高崎市倉渕町権田

☎ 027-378-4333
FAX 027-378-4322

株式会社 みなとや

田中 栄司 (33期)
田中 大喜 (63期)

〒370-3342
高崎市下室田町1123

☎ 027-374-0122

株式会社 有田屋

取締役会長 湯浅 太郎 (4期)
代表取締役 湯浅 康毅 (37期)
専務取締役 湯浅 由香子 (37期)

〒379-0116
安中市安中2-4-24

☎ 027-382-2121 (代)
FAX 027-382-2516

萩原建設 株式会社

代表取締役 萩原 永史 (25期)

〒379-0140
安中市下秋間654番地

☎ 027-381-2850
FAX 027-382-6411

株式会社 並 木

代表取締役 静 朋人 (32期)
静 信江 (32期)

〒379-0133
安中市原市587-1

☎ 027-382-0730
FAX 027-381-1125